

## セクション1: 化学物質特定情報および会社情報

### 製品特定情報

製品形態 : 混合物

製品名 : ブルーグープ

### 該当物質または混合物の関連特定用途および使用禁止用途

物質/混合物の用途 : スレッド潤滑剤

使用上の制限 : 推奨されている用途は特定されていません

### 安全データシートの提供者に関する詳細

#### 会社、メーカー

株式会社 ヴィーガ・マニュファクチャリング

29495 F.A. Lennon Drive

Solon, Ohio 44139

米国

+1-440-519-4000

[www.swagelok.com](http://www.swagelok.com)

### 緊急時の連絡先電話番号

緊急連絡先電話番号 : Infotrac: +1-800-535-5053

## セクション2: 危険有害性の要約

### 物質または混合物の分類

#### GHS-JP分類

未分類。

#### ラベル要素

該当する表示なし

#### その他の危険有害性

分類につながらないその他の危険有害性 : 既存の眼疾患、皮膚疾患、または呼吸器系疾患がある場合は、暴露によりこれらの疾患が悪化するおそれがある。PTFEの過熱による煙の吸入は、ポリマー熱、発熱、悪寒、およびときに咳を伴う一時的なインフルエンザ様疾患を引き起こすことがあり、約24時間持続します。

## セクション3: 組成/成分情報

物質または混合物の識別 : 混合物

JIS Z 7253およびJIS Z 7252の意味において、この混合物の成分は開示する必要はない。

## セクション4: 応急措置

### 応急措置の説明

一般的な応急措置 : 意識のない場合は、口から何も与えてはならない。気分が悪い場合は、医師の診察を受ける(可能な場合は製品のラベルを提示する)。

吸入した場合の応急措置 : 症状が発生した場合: 屋外に退避し、暴露の疑いのある区域の換気を行う。呼吸困難が続く場合は、医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合の応急措置 : 汚染された衣類を脱ぐ。多量の水と石鹸で洗うこと。刺激が生じた場合や、刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受ける。

眼に入った場合の応急措置 : 水で5分以上注意深く洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。刺激が生じた場合や、刺激が続く場合は、医師の診察、手当てを受ける。

飲み込んだ場合の応急措置 : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。医師による手当てを受けること。

応急処置をする者の保護と対策 : 呼吸用保護具を含む適切な保護具を着用していない者は、火災発生エリアに立ち入ってはならない。

### 最も重大な症状および影響(急性および遅延性)

症状/影響 : 通常の使用において予測される条件下では、重大な危険有害事象の発生は見込まれない。

# ブルーグープ

## 安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

吸入した場合の症状／影響	: 長時間暴露により、炎症を引き起こすおそれがある。PTFEの過熱による煙の吸入は、ポリマー熱、発熱、悪寒、およびときに咳を伴う一時的なインフルエンザ様疾患を引き起こすことがあり、約24時間持続します。
皮膚への接触後の症状／影響	: 長時間暴露により、皮膚の炎症を引き起こすおそれがある。
眼に入った場合の症状／影響	: 眼にごく軽度の刺激を引き起こすおそれがある。
飲み込んだ場合の症状／影響	: 飲み込むと有害な影響を及ぼすおそれがある。
慢性症状	: 通常の使用条件下では予想されない。

### 医師による即時の手当ておよび特別な治療の適応となる症状

ばく露した場合やばく露が懸念される場合には、医師の診察、手当てを受けること。医師の診察が必要な場合は、製品の容器やラベルを持参すること。

## セクション5: 火災時の措置

### 消火剤

適切な消火媒体	: 水噴霧、水霧、二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )、耐アルコール性泡消火剤、粉末消火剤。
不適切な消火媒体	: 強力な放水を使用してはならない。強力な放水の使用により火災が拡大するおそれがある。

### 物質または混合物に由来する特別な危険有害性

火災危険性	: 可燃性ではないが、高温では燃焼するおそれがある。
爆発危険性	: 本製品には爆発性はない。
反応性	: 通常の条件下では有害な反応は発生しない。

### 消火時の注意事項

火災に関する予防措置	: 化学物質による火災の消火は慎重に行う。
消火時の指示	: 露出した容器の冷却には水噴霧または水霧を使用する。
消火時の防護	: 呼吸用保護具を含む適切な保護具を着用していない者は、火災発生エリアに立ち入ってはならない。
有害燃焼生成物	: アクロレイン。炭素酸化物(CO、CO <sub>2</sub> )。フッ素化合物。窒素酸化物。
その他の情報	: 追加情報なし。

## セクション6: 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

一般的な措置	: 眼、皮膚、衣類への長時間の接触は避けること。(蒸気、ミスト、噴霧の)吸入は避けること。
二次災害の防止策	: 当該領域の換気を行う。裸火、火花から遠ざけること。禁煙。着火源を除去する。
緊急救援隊以外の人員	
保護具	: 適切な個人用保護具(PPE)を使用する。
緊急措置	: 不必要な人員を退避させる。
緊急対応にあたる人員	
保護具	: 浄化担当スタッフに適切な保護具を着用させる。
緊急措置	: 現場に到着したら、まず危険なものがないことを確認し、自分自身や人々の身の安全やその付近の安全を図り、状況が許し次第、訓練された人の支援を求める。当該領域の換気を行う。

### 環境に関する注意事項

下水および公共用水への流入を防止する。

### 封じ込めおよび浄化の方法・資材

封じ込め	: 漏出した物質を防壁または吸収材で封じ込め、移動および下水や水路への流入を防止する。
浄化方法	: 漏出した物質を迅速に除去し、回収した物質は安全に廃棄する。漏出した物質を廃棄に適した容器に移す。漏出の発生後に、監督官庁に通報する。

### 他のセクションの参照事項

暴露防止と保護措置についてはセクション8を、廃棄上の注意についてはセクション13を参照すること

# ブルーグープ

## 安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

### セクション7: 取扱いおよび保管上の注意

#### 安全な取扱いに関する注意事項

加工時の追加的有害危険性 : 可燃性粉塵である物質を含む。乾燥して蓄積すると、空气中に可燃性粉塵濃度が形成され、発火して爆発を引き起こすおそれがある。適切な予防策を講じる。

技術的対策 : 高温加工における本製品の使用に際しては、定められた安全動作条件が確立され、維持されていることを確認するために、徹底的な評価を行うことが求められる。

安全な取扱いに関する注意事項 : 飲食や喫煙の前、および作業場を離れる際には、手やその他の露出した部位を刺激性の少ない石鹸と水で洗浄する。眼、皮膚、衣類への長時間の接触は避けること。蒸気、ミスト、噴霧の吸入は避けること。

混触危険物質や混合物の取扱いを防止 : 強酸、強塩基、強酸化剤から遠ざけること。作業中は飲食や喫煙をしないこと。

衛生対策 : 労働安全衛生手順に従って取り扱うこと。

局所および一般的な換気 : 十分な換気を確保する。

#### 安全な保管の条件(混触危険性を含む)

技術的対策 : 適用される規則を遵守する。

保管条件 : 使用していない場合は、容器を閉めておく。乾燥した涼しい場所に保管すること。直射日光、極端な高温または低温、混触危険物質を避けて維持/保管する。

混触危険物質 : 強酸、強塩基、強酸化剤。

容器包装材料 : 室温で保管

#### 特定の最終用途

スレッド潤滑剤

### セクション8: ばく露防止および保護措置

#### 管理基準

追加情報なし

#### 生物学的限界

追加情報なし

#### 暴露防止

適切な工学的管理

: 暴露の危険性のある区域の近くに、目の洗浄および身体洗浄に適した設備を設置しなければならない。特に狭いエリアでは、十分な換気を確保すること。国/地方公共団体の規則を確実に遵守する。

個人用保護具

: 手袋。保護衣。保護ゴーグルまたは保護眼鏡



保護衣の素材

: 耐化学物質性の素材および繊維

手の保護

: 保護手袋を着用すること。

眼および顔面の保護

: 化学薬品対応の安全ゴーグルまたはサイドシールド付き安全眼鏡。

皮膚および身体の保護

: 適切な保護衣を着用すること。

呼吸器系の保護

: 暴露限界値を超えるか、呼吸器への刺激が発生した場合は、認証済みの呼吸用保護具を着用する必要がある。換気が不十分な場合や、酸素不足、または暴露レベルが不明な場合は、認証済みの呼吸用保護具を着用すること。

熱危険性の防護

: 追加情報なし

その他の情報

: 本製品の使用時には飲食または喫煙をしないこと。

### セクション9: 物理的および化学的性質

#### 基本的な物理的・化学的性質に関する情報

物理的状態 : 液体

外観 : ブルー

臭い : 無臭

臭いの閾値 : データなし

pH : データなし

蒸発速度 : データなし

# ブルーグープ

## 安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

融点	: データなし
凝固点	: データなし
沸点	: 366°C(ヒマシ油、脱水)
引火点	: 250°C(ヒマシ油、脱水)
自然発火温度	: 該当なし
分解温度	: データなし
燃焼性	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対蒸気密度(@ 20°C)	: データなし
密度	: 1.3g/ml
相対密度	: データなし
溶解度	: データなし
分配係数:N-オクタノール/水	: データなし
粘度	: データなし
動粘度	: データなし
爆発限界	: データなし
粒子特性	: データなし

### その他の情報

追加情報なし

## セクション10: 安定性および反応性

### 反応性

通常の条件下では有害な反応は発生しない。

### 化学的安定性

推奨される取扱いおよび保管条件下にある場合は安定(セクション7を参照)。

### 有害反応の可能性

有害な重合は発生しない。

### 避けるべき条件

直射日光、極端な高温または低温、混触危険物質

### 混触危険物質

強酸、強塩基、強酸化剤

### 危険有害な分解生成物

熱分解により、以下を生成する可能性がある: アクロレイン。炭素酸化物(CO、CO<sub>2</sub>)。窒素酸化物。350°C(662°F)を超える温度にすると、毒性のあるふっ素化合物が形成されるおそれがある。温度が355°C(670°F)を超えると、分解速度が増加する。

## セクション11: 有害性情報

### 毒性影響に関する情報

考えられる暴露経路	: 経皮、眼への接触、吸入、経口
潜在的なヒトの健康に対する有害作用および症状	: 利用可能なデータに基づくと、分類基準を満たしていない。

急性毒性(経口)	: 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。
急性毒性(経皮)	: 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。
急性毒性(吸入)	: 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。
皮膚腐食性/刺激性	: 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	: 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。
呼吸器感作性	: 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。
皮膚感作性	: 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。
生殖細胞変異原性	: 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。
発がん性	: 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。
生殖毒性	: 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。
STOT-単回暴露	: 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。

# ブルーグループ

## 安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

特定標的臓器毒性 (STOT) : 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

— 反復暴露

吸引性呼吸器有害性 : 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

その他の情報 : 追加情報なし

### セクション12: 環境影響情報

#### 毒性

水生環境有害性、短期(急性) : 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

水生環境有害性、長期(慢性) : 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

#### 残留性および分解性

ブルーグループ

残留性および分解性 : 立証されていない。

#### 生物蓄積性の可能性

ブルーグループ

生物蓄積性の可能性 : 立証されていない。

#### 土壌中の移動性

追加情報なし

#### その他の有害な影響

その他の有害な影響 : 知見なし。

オゾン層への有害性 : 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

その他の情報 : 環境への放出を避けること。

### セクション13: 廃棄上の注意

#### 廃棄物処理方法

地域廃棄物規制 : 正式な規制に従い廃棄しなければならない。

廃棄物処理方法 : 地方公共団体の規則に従うと、埋立て処分または焼却処分ができる可能性がある。

下水への廃棄に関する勧告 : 下水へ廃棄物を流さないこと。

推奨される廃棄方法 : 内容物/容器は国際/国/都道府県/市区町村の規則に従って廃棄すること。

その他の情報 : 可能な限り、材料をリサイクルする。

生態系 - 廃棄物質 : 環境への放出を避けること。

### セクション14: 輸送上の注意

この輸送上の説明は、SDSの起草時点で想定された内容に従って記述されており、基準となる変数が、SDSが発行された時点で既知であった、あるいは、未知であったため、変動することがある。

#### UNRTDGに準拠

輸送規制なし

#### IATAに準拠

輸送規制なし

#### IMDG/IMOに準拠

輸送規制なし

#### MARPOL条約の付属書類IIおよびIBC Codeに従うばら積み輸送

該当なし

#### その他の情報

その他の情報 : 補足情報なし

### セクション15: 適用法令

#### 適用法令

追加情報なし

### セクション16: その他の情報

作成日または最新改訂日 : 2024/05/15

参考文献 : 本書は日本の危険有害性周知基準である安全データシート(SDS)の要件JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準じて作成された。

# ブルーグループ

## 安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

### データソース略語の用語集

ATSDR: 有害物質・疾病登録庁(米国保健福祉省)

AU\_WES: オーストラリアWES

CHEMVIEW: ChemView(米国環境保護庁)

EC\_RAR: 欧州委員会更新評価報告書

EC\_SCOEL: 欧州委員会職業暴露限界に関する科学委員会

ECETOC: 欧州化学物質生態毒性・毒性センター

ECHA\_API: 欧州化学品庁API

ECHA\_RAC: ECHAリスク評価委員会

EFSA: 欧州食品安全機関

EPA: 米国環境保護庁

EPA\_AEGL: 急性暴露ガイドラインレベル(米国環境保護庁)

EPA\_FIFRA: 連邦殺虫剤・殺菌剤・殺鼠剤法再登録資格決定(米国環境保護庁)

EPA\_HP: 大量生産化学物質(米国環境保護庁)

EPA\_TRED: 許容度再評価の適格性判断に関するリスク評価(米国環境保護庁)

EU\_CLH: 欧州連合調和分類およびラベリング提案

EU\_RAR: 欧州連合リスク評価書

FOOD\_JOURN: Food Research Journal(1956年)

IARC: 国際がん研究機関

IDLH: 米国国立労働安全衛生研究所の急性の毒性限度(「生命または健康に対する差し迫った危険」の値プロファイル)

IUCLID: 国際統一化学情報データベース

JAPAN\_GHS: 分類データに関する日本のGHS基準

JP\_J-CHECK: 日本 J-Check

KR\_NIER: 韓国国立環境科学院の評価

NICNAS: オーストラリア国家工業化学品届出審査機構

NIOSH: 米国労働安全衛生研究所(米国保健福祉省)

NLM\_CIP: 米国国立医学図書館ChemIDplusデータベース

NLM\_HSDB: 米国国立医学図書館有害物質データバンク

NLM\_PUBMED: 米国国立医学図書館PubMedデータベース

NTP: 国家毒性プログラム

NZ\_CCID: ニュージーランド化学物質分類および情報データベース

OECD\_EHSP: 環境・健康・安全に関する出版物(経済協力開発機構)

OECD\_SIDS: スクリーニング情報データセット(経済協力開発機構)

WHO: 世界保健機関

本情報は現有知識をもとにしており、健康、安全、環境面での要件のみを目的に製品の特徴を記載したものである。よって、製品の個別の特性を保証すると解釈されることがあってはならない。

日本 GHS SDS